

SDGs経営のポイント

- 時代のニーズに合わせ、企業理念に沿った商品開発で社会課題の解決に貢献
- 日本にとどまらず、海外にも目を向けた広い視点でのSDGs経営の実践

○SDGs経営への取組経緯

- ・海外、特にヨーロッパでは、SDGsの取組を行っていないければ、なかなかモノが売れず、投資にも影響がある。特に環境については基準が厳しく、例えばエンジンひとつにしても、厳しい排気ガスの上限基準が設けられており、こうした基準への対応が求められている。
- ・当社においては、成長が見込まれる海外での販路開拓が非常に重要であり、持続的な成長のためにもSDGsへの取組は欠かせないものになっていた。
- ・このような中で、国連で合意された全世界的な取組であるSDGsに当社の取組を紐付けることで、海外での事業展開を円滑に進めるとともに、社会の課題解決に貢献すること、企業ブランドのイメージを向上させること等を目指している。

○社内での浸透に向けて

- ・3年ごとの中期計画にSDGsの内容を記載している。この計画に沿って各部署は部署方針を策定しており、日々従業員が目にする目標の中にSDGsの内容が含まれているため、従業員へ自然と周知が出来ている。
- ・管理職に対しては、2021年からSDGsに関する研修を実施している。



○SDGs経営における当社の取組

【社会課題解決型のものづくり】

- ・現状を把握し、時代のニーズにあった商品開発を進める中で、社会課題の解決に貢献してきた。例えば、戦後の食料増産に対応するための農業機械、高齢化に対応するための電動車いす、働き手不足に対応するためのハイブリッドラジコン草刈り機などの開発を行ってきた。
- 社会課題を解決する商品開発を通して、**新しいビジネス分野の開拓につなげている。**

●製品安全

- ・こうした商品開発をする中で、多くの人に便利で安心・安全なものを提供したいという思いから、製品安全に対するリスクアセスメントの実施や重要保安部品の管理および再発防止の徹底を行っている。
- その取組が評価され、「**第15回製品安全対策優良企業表彰**」で技術総括・保安審議官賞を受賞。

●途上国の課題解決

- ・海外営業も積極的に展開しており、特にフランスをはじめとしたヨーロッパに当社の商品を輸出しており、**輸出売上実績は好調に推移している。**
- ・また、先進国だけでなく、JICAの事業にも参画し、自社の製品を活かし、途上国の課題解決も目指している。具体的には、インド国タミルナドゥ州における雑草被害による生産力の低下や除草剤散布による人体・環境への影響の課題を解決すべく、当社の乗用型草刈り機を導入するというもの。
- 先進国のみでなく、**途上国への販路拡大も期待**できる。



【グローバルパートナーシップ】

●高度外国人材の活用

- ・外国人材を積極的に活用し、社会の様々な課題解決に向けグローバルパートナーシップを強化している。高度外国人材の採用を増やしており、課長や次長など、管理職にも登用している。
- 人手不足が深刻化する中で、**新たな人材の確保や海外展開につなげている。**

【人材育成】

- ・教育の機会を準備し、社会有用な人材を育成している。具体的には、階層別教育体系を整えたり、技能マトリックス表を年度の初めに作成することで、社員が成長を実感できる組織づくりを行っている。
- ・また、従業員の技能や能力だけでなく得意分野や関心事の把握にも努め、それぞれの個性や能力を引き出す配置や業務の見直しを行っている。

○今後の取組について

●環境にやさしい商品の開発

- ・モーターとエンジンのハイブリッド商品は実現しているが、今後は完全な電動化を目指す。また、スマート農業の実現のため、GPSを活用した自動運転化、さらにはそれらを他の製品へ展開することも目指す。

○会社概要

【本社】愛媛県松山市衣山1丁目2-5

「豊かさの魅力の想像」を共通の理念とし、「人々が感動する商品を提供することにより、事業の発展と持続可能な社会の実現に貢献することを目指し、農業関連機械や電動車いすなどの製品を開発、製造している。